

# 入善町「学力向上プログラム」取組報告 ～入善町立入善小学校～

## 意欲的に学び合う子供の育成を目指して

本校は、今年度から3年間の予定で学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業の拠点校の指定を受けて、次の取組を進めている。

### (1) 温かい人間関係を土台とした学級経営を大切にしながら、集団の学習規律を高めるための取組

#### ① 学級経営に関する校内研修会の実施

学級開きや学級内のルールづくりに関する研修会、学級目標の設定や総合質問紙調査(i-check)の活用に関する研修会等を行った。学級目標を決める際には、時間をかけて丁寧に話し合って合意形成を図り、折に触れ学級目標について振り返ることを全教員で共通理解の上実践した。これにより、子供たちが学校生活の中で学級目標を意識し、相手の気持ちを考え、思いやりをもって接する姿や協力し合いながら活動する姿が多く見られるようになり、安心して学び合える雰囲気が醸成されてきた。

#### ② 学習規律の重点化

学習規律の重点を4つに絞り、全学級で共通実践に努めた。毎学期、子供自身で振り返りを行い、学習規律の定着状況を確認する機会を設けた。それに加えて教師用のシートも作成し、教師自身が自分の指導を振り返ることができるようにした。振り返りの結果からは、学習規律が次第に定着してきたことが明らかになった。

### (2) 子供の実態を捉え、育てたい力を明確にした単元構想

#### ① 子供の実態を捉え、育てたい力を明確にした単元構想

研究授業では、追究意欲を高め意欲的に学び合う子供を育てるために、授業者全員が学習指導案に単元の指導と評価の計画を記載し、研修会において検討を重ねた。子供の思いから単元を貫く学習課題を設定したり、日常生活と関連付けた学習課題を位置付けたりしたことにより、子供が生き生きと学習に取り組む姿が見られた。さらに、子供同士を単元のどの場面でどんな形態で関わらせるかについて検討を重ねたことにより、子供同士が考えをつなぎながらよりよい考えを導き出そうとする姿が見られるようになってきた。



<意欲的に学び合う子供たち>

今後もこれらの実践を継続し、意欲的に学び合う子供の育成を目指してさらに研究を進めていきたい。

# 入善町「学力向上プログラム」取組報告 ～入善町立桃李小学校～

## 「聞く力」「話す力」の育成を目指した授業づくり—国語科・算数科の授業を通して—

本校は、研究主題を「主体的に言語活動に取り組み、確かな学びをつくり上げていく子供の育成」と設定し、3つの仮説を基に授業改善に取り組んだ。また、部会構成を、国語科部会、算数科部会、特別支援教育部会の三部会で組織し、部会相互で連携を図りながら研究を進めた。

### 1 学習規律の確立

授業づくりについて、年度当初に全教員で言語環境づくり(桃李スタンダード)と1時間の授業の流れ(学びのスタンダード)について共通理解を図り協働実践に取り組んだ。

### 2 「聞く力」「話す力」の育成

ア 【「あったらいいな、こんなもの」2年生】(国語科の授業実践から)

「話すこと・聞くこと」のがんばりカード(自己評価カード)を作成し、活動に合わせて視点を示し、振り返りを書くようにした。その積み重ねにより、児童は、「話すこと・聞くこと」の手応えを感じることができた。

イ 【「かたちあそび」1年生】(算数科の授業実践から)

グループでの話し合いを基に全体での話し合いにつなげたり、提示してある話型を生かして形当てクイズを取り入れたりしたことで、意欲的に話す姿が見られた。

ウ 【スピーチタイム】(毎週金曜日の朝の活動から)

スピーチテーマや聞き合いの形態を工夫し、全員に話す機会が確保されるように取り組んだ。その積み重ねにより、相手を意識して話そうとする姿が見られるようになった。

エ 【自己評価】(毎月末の学びカードから)

「話すこと・聞くこと」に関する学びカードを作成し、月末に児童による自己評価を行った。

継続的に自分の学びを振り返ったことが、「話すこと・聞くこと」の意識の向上につながった。



<形当てクイズに取り組む子供たち>

### 3 今後に向けて

「聞く力」「話す力」の育成に向け、今年度の実践を踏まえ、仮説に基づいた研究授業や研修会をさらに充実させ、教員一人一人の指導力を高めていきたい。



## 「内地留学を終えて」

入善町立飯野小学校 教諭 永原 みどり

教員生活を送る中で、自分の指導・支援の仕方や生徒指導主事としての立場について考えていた折に、内地留学の話をいただきました。そこで、教員としてのスキルの向上を目指し、研修を受けることを決めました。

5月から3か月間の内地留学では、富山大学人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター石津憲一郎先生のご指導の下、「児童の成長を支える支援の在り方」をテーマに教育心理学やカウンセリングを中心に学びました。自分の気持ちを適切に表現できないことが一因で、いじめや不登校、ひきこもり等が起こっているのではないかと考え、感情面から研修を進めることにしました。また、児童相談所や少年鑑別所、少年院等の外部機関を見学させてもらい、受容してくれる大人がいれば問題行動を起こさずに済んだのではないかと考えるようになりました。

この研修を通して、今までの私は、子供たちを励まそうとポジティブな声かけに努め、ポジティブな子供の姿を求めていることに気付かされました。それと同時に子供のネガティブな感情にも目を向け、その気持ちを受け止めることの大切さを知りました。これからは、子供の行動面だけでなく、その行動に至った子供の思いにも触れていきたいと思います。また、大学で学んだアサーショントレーニングを取り入れ、感情は見方や考え方で変わることを子供たちに伝えていきたいと思えます。

3か月間の内地留学は、大変有意義な研修となりました。このような機会をいただいたことに感謝申し上げます。学んだことを教員生活で生かし、子供の心に寄り添いながら自己受容感を育むことができる教員を目指して、これからも自己研鑽していきたいと思えます。



## 「内地留学を終えて」

入善町立入善西中学校 教諭 五十里 武史

10月から3か月間、上越教育大学大学院で早川裕隆教授のご指導の下「役割演技を用いた道徳科の指導方法」をテーマに研修する機会をいただきました。令和元年度より中学校において「特別の教科 道徳」が全面実施となりました。校内研修や学年の先生方と相談したり助言をいただいたりしながら授業展開を工夫するものの、どうすればより深く道徳的諸価値に迫るような授業ができるのかという疑問が常にありました。

今回の研修で学んだことは、「望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業」ではないということです。研修では、自分が今までやってきたり見てきたりした道徳の授業とは違い、教材ならではの価値に迫る詳細なねらいの立て方、主人公の心の葛藤を実感できるような発問や補助発問の準備、役割演技を用いて行う終末の深め方など驚きの連続でした。これが「考え、議論する道徳」「深い学びのある道徳」なのだと思感を持って理解することができました。また、研修の中で、支援校プロジェクトの対象校である小学校や中学校へ出向き、指導案検討会や模擬授業、授業、協議会等に何度も参加させていただきました。3か月で学んだことは、役割演技を用いた道徳科の指導方法のほんの一部です。今回学んだことを生かして日々の授業実践を進め、試行錯誤しながら、さらに研修を重ねるとともに、町小中学校の道徳教育の推進に力を尽くしたいと思います。

終わりにになりましたが、このような貴重な研修の機会を与えていただいた入善町教育委員会、そして快く研修に送り出してくださった島瀬英智校長をはじめ、入善西中学校の教職員の皆様に厚くお礼を申し上げます。